

# 筑波大学附属病院 小児科研修医(専攻医)プログラム

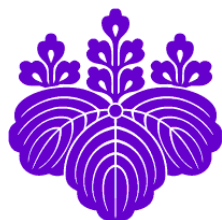
A photograph of four children running joyfully across a green lawn. In the foreground, a boy in a blue and green plaid shirt and blue shorts is running towards the left, his mouth open in a shout. To his left, a girl in a pink dress is also running. In the background, two more girls are running, one in a pink shirt with 'make a wish' text and another in a light blue shirt. A hand is visible on the right, holding a string that the children are following.

元気な子どもはよく笑います。  
我々小児科医は子どもの病気を治すだけでなく、  
子どもたちの本当の笑顔を守ることを、何よりも大切にしています。  
そして、その笑顔に出会えることが、何にも代えがたい喜びです。

小児科医は「子どもの総合医」です。  
子どもの体、こころ、生活、家族にまで目を配り、  
子どもの健やかな成長を願います。  
子どもたちの向こうに見える無限の未来に夢を託します。

子どもたちの明るい未来のために  
筑波大学小児科の仲間として、共に歩んでみませんか？





医師として小児科医として 筑波大学医学医療系 小児科学 教授 高田 英俊

研修の中にあるあなたは、限りなく時間があるように感じていることと思います。自分が選択した医師という職業の実力を磨くために邁進したいという気持ちが最も強くなるべき時期だろうと思います。

さらなる節目節目の選択を迫られる時には、自分の長期的な将来の姿を見据えて判断しなければなりません。

あなたの小児科医としての将来像はどういうものでしょうか？

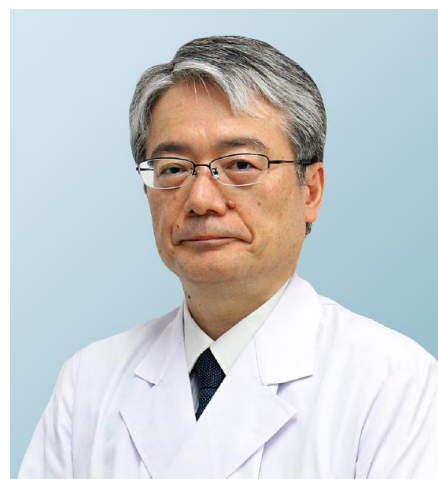
この質問には、ほとんどの医師が答えられません。自分の将来は自分の意思と努力と、環境と、それからちょっとした運によって決定されるからです。

この環境はどうでしょうか？

ここには垣根がありません。皆、誰に対しても躊躇や遠慮なく意見を言います。この写真でおわかりのように、皆、こどもの診療に対する自信と熱意を持っています。この活発なスタイルは、教育大学の伝統からくるものだろうと思います。以降のページにあるように、ここでは、いくらでも勉強する機会が得られます。

まちがいなく、この環境は、あなたの意思や努力、それからちょっとした運に、素直に影響します。

私は年齢を重ねるごとに、ますます小児科医になって良かったと思います。



# 筑波大学小児科後期研修の特徴

- 小児のgeneralistになれる！

大学病院での専門研修や関連病院での一般研修により幅広い経験と知識を養います。

- 確かな診療技術と専門スキルを取得！

PICUでECMO等を含めた小児集中管理！  
子どもに優しく診療に直結した超音波検査！  
など様々な技術を習得できます。

- 常に子どもと家族に寄り添う小児科医になれる土壌がここにはある！

多職種と連携して、子どもと家族の心と体、生活を支えます。

- 研究グループの一員となり、学会発表や論文作成の機会も充実している！

目の前の症例から「学び」が生まれます。  
小児科専門医に必修となった論文作成も積極的に行います。

そしてspecialistへの道が拓かれる！



# 筑波大学附属病院小児科研修医(専攻医)プログラム

## 目標:小児科専門医として診療ができること

1. 小児科専門医を4年目に取得する。
2. 独力で一次・二次医療を、指導医と協力して三次医療を実践する。
3. 小児科内の専門分野の研修を始める。

### 【研修1～3年目】

#### 総合的に小児医療を研修し、小児科専門医の取得を目指します

##### ①小児科医スタートアップ(4～12か月)

筑波大学附属病院において、指導医のもと、小児医療の基本的な考え方を身に付け、専門医として必要なさまざまな領域の臨床経験を積みます。

##### ②小児一般臨床(4～12か月)

連携施設や関連施設の病院で、主に地域総合小児医療を中心に、一次～二次の小児科診療に携わります。小児保健から小児救急まで幅広い小児医療を実践します。

##### ③新生児研修(4～12か月)

筑波大学附属病院もしくは茨城県立こども病院的の総合周産期母子医療センターNICUで、新生児医療を研修します。

##### ④選択研修(6か月～)

各人の希望する領域に応じて、各施設での選択研修を行います。

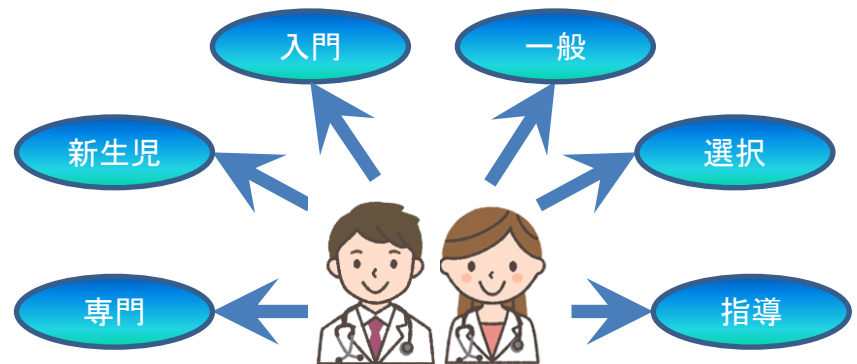
上記①～④を研修しながら学会発表や論文発表を行います。

### 【研修4年目】

#### 専門医取得+サブスペシャリティ研修

上記の①～④を修了した後、筑波大学附属病院や連携・関連機関において、指導医のもと病棟の実質的な代表者として診療します。また自ら初期研修医の指導も行います。この年度に専門医試験を受験し、専門医取得後は更なるステップアップとしてサブスペシャリティの確立を目指していきます。

受験年次においても指導医から適切な指導・時間的な配慮がなされ、サブスペシャリティを目指していける事が当プログラムの特徴です！



#### 研修連携施設:

筑波メディカルセンター病院、西南医療センター病院、茨城県立こども病院、日立総合病院

#### 研修関連施設

茨城県立医療大附属病院、西部メディカルセンター病院、総合守谷第一病院、筑波学園病院、ひたちなか総合病院、龍ヶ崎済生会病院、茨城県立中央病院、茨城福祉医療センター、国立病院茨城東病院

私は学生の頃から小児科に興味を持っており、初期研修が終わり後期研修へ入るときは、いよいよだという期待で胸が膨らんでいました。一方で、まだまだ知識がない中で「私は小児科医です」と名乗ることに不安な気持ちもありました。

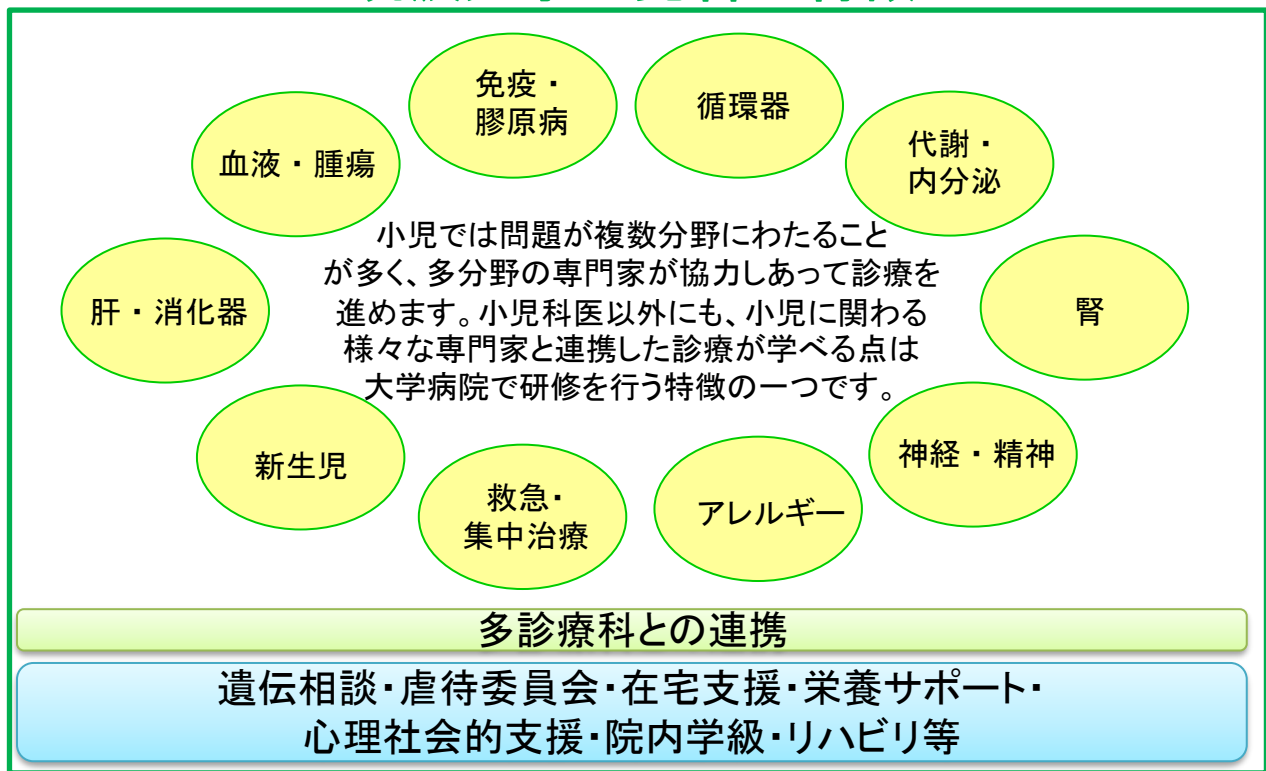
実際に、はじめは分からないことだらけでしたが、日々の診療では上級医が優しく指導してくれ、回診やカンファレンスでは指導医から教わり、さらに教授回診でサブスペシャリティをもった多分野の小児科医からの指摘や意見が聞けます。まさに屋根瓦方式で、すべての上級医から指導を受けられる体制ができており、この環境で日々成長していると実感しています。

また、学会発表においては経験豊かな先生方の指導の下で良い発表の基礎を学び、さらに小児科専門医を取るにあたって必須となった論文執筆についても、必ず指導医が手助けしてくれます。知識および臨床力を兼ね備えた医師になるための指導体制が整っていることは、筑波大学小児科の大きな魅力だと思います。



卒後4年目  
男性医師

# 筑波大学小児科の特徴



## 認定施設・専門医・インストラクター一覧

|       |                                                                                                                                     |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | 日本小児科学会認定小児科専門医研修施設<br>日本小児科学会認定小児科専門医                                                                                              |
| 血液、腫瘍 | 日本血液学会研修施設<br>日本小児血液がん学会認定専門医研修施設<br>日本小児血液・がん学会認定指導医・専門医<br>日本血液学会認定専門医<br>日本がん治療認定医機構がん治療認定医                                      |
| 肝、消化器 | 日本肝臓学会指導医・認定肝臓専門医<br>日本消化器病学会認定専門医<br>日本消化器内視鏡学会専門医                                                                                 |
| 循環器   | 日本小児循環器学会認定修練施設<br>日本小児循環器学会認定専門医<br>日本循環器学会認定専門医<br>日本不整脈学会認定不整脈専門医                                                                |
| 新生児   | 日本周産期・新生児医学会新生児専門医研修施設<br>新生児蘇生法(NCPR)トレーニングサイト施設・NCPRインストラクター<br>日本周産期・新生児医学会認定周産期(新生児)暫定指導医・専門医                                   |
| 神経、精神 | 日本小児神経学会研修認定施設<br>日本小児神経学会認定指導医・専門医<br>日本小児心身医学会指導医・認定医                                                                             |
| アレルギー | 日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本アレルギー学会認定指導医・専門医                                                                                               |
| 救急    | 救急科専門医指定施設<br>集中治療科専門医研修認定施設<br>日本集中治療医学会専門医<br>日本救急医学会認定救急科専門医<br>AHA認定PALSインストラクター<br>Emergo Train Systemシニアインストラクター<br>日本移植学会認定医 |
| 遺伝    | 臨床遺伝専門医制度認定指導医・専門医                                                                                                                  |
| その他   | 日本超音波学会指導医・認定医                                                                                                                      |

## 免疫・膠原病

### ●主な疾患

原発性免疫不全症  
自己炎症性疾患  
若年性特発性関節炎  
全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎、MCTD、CRMOなど  
ワクチン不応者の対策

### ●手技・検査

関節エコー  
免疫細胞、サイトカイン、遺伝学的解析を含めた病態  
評価と免疫抑制薬・分子標的薬を用いた治療

## 代謝・内分泌・腎

### ●主な疾患

先天代謝異常 全ての古典的内分泌疾患  
移植後・過栄養など先進国特有の内分泌異常  
糖尿病 脂質異常症 ネフローゼ症候群 IgA腎症

### ●手技・検査

内分泌負荷試験 ホルモン補充療法と抑制療法  
最新機器を用いたインスリン治療 経皮的腎生検  
遺伝子診断 先天代謝異常の最終診断

## 血液・腫瘍

### ●主な疾患

造血器腫瘍 固形腫瘍 脳腫瘍 再生不良性貧血  
骨髄異形成症候群  
良性血液疾患 長期フォローアップ診療

### ●手技・検査

骨髄検査 髄腔内注射  
集学的治療(小児外科、脳神経外科、放射線腫瘍科、  
陽子線治療センター、遺伝子細胞治療グループ)  
トータルヒューマンケア(精神医学、心身障害学、  
看護学、発達臨床心理学、教育学、各研究室と協力)  
自家造血幹細胞移植 遺伝子細胞治療 ターミナルケア

## 救急・集中治療

### ●主な疾患

意識障害 痙攣重積 急性脳症  
先天代謝異常のクライシス 呼吸不全 無呼吸  
肺出血 出血性ショック 敗血症 虐待  
心不全 肝不全 中毒 熱傷 外傷

### ●手技・検査

特殊な人工呼吸器管理 体外式膜型人工肺(ECMO)  
低体温療法 大量バルビツレート療法 血液浄化療法  
気管支鏡検査 侵襲的脳圧モニタリング  
ヘリコプター搬送 虐待症例における諸手続き

## 肝・消化器

### ●主な疾患

胆道閉鎖症等の胆汁うっ滞疾患 劇症肝炎  
肝移植後症例 短腸症候群と静脈栄養関連肝障害  
原発性硬化性胆管炎 門脈大循環短絡症  
炎症性腸疾患

### ●手技・検査

肝生検 消化管内視鏡検査・治療 注腸造影  
透視下十二指腸チューブ挿入 腹部エコー検査  
免疫抑制療法

## 循環器

### ●主な疾患

全ての先天性心疾患  
川崎病 冠動脈瘤 心筋症 肺高血圧症  
小児期不整脈 胎児心臓病 成人先天性心疾患

### ●手技・検査

心臓カテーテル検査 心臓電気生理学的検査  
カテーテル・インターベンション  
(バルーン拡張術、コイル塞栓術、BASなど)  
カテーテルアブレーション  
体外ペーシング 心エコー検査 心電図  
運動負荷心電図 ホルター心電図  
胎児心エコー検査 胎児心磁図検査

## 神経・精神

### ●主な疾患

脳性麻痺 重症心身障害児  
精神遅滞 自閉症スペクトラム 注意欠陥多動性障害  
難治性てんかん 水頭症 脊髄髄膜瘤・キアリ奇形  
ダンディーウォーカー症候群 筋ジストロフィ ミオパチー  
ミトコンドリア病 変性疾患

### ●手技・検査

長時間ビデオ脳波同時記録 各種誘発電位  
末梢神経伝導検査 針筋電図 誘発筋電図  
全身麻酔下における筋生検

## 新生児

### ●主な疾患

新生児疾患全般 子宮内診断症例 胎児治療症例  
超低出生体重児 極低出生体重児  
新生児仮死 呼吸障害 黄疸 感染症  
代謝疾患 新生児けいれん 心疾患 外科疾患  
染色体異常、多発奇形、骨系統疾患  
その他複雑な合併症を有する新生児症例

### ●手技・検査

新生児蘇生術 新生児集中治療 気管挿管  
胸腔穿刺 腰椎穿刺 エコー検査(頭部、心臓、腹部)  
中心静脈カテーテル 臍動脈カテーテル  
交換輸血 一酸化窒素吸入療法 低体温療法





## 筑波大学附属病院 小児総合医療センター

University of Tsukuba Hospital  
Children's Medical Center

Hospital in Hospital  
病院の中のこども病院

小児科の診療は、小児総合医療センター、新生児集中治療病棟(NICU、GCU)、小児集中治療室(PICU)の3つの病棟からなります。

小児病棟52床、NICU15床、GCU24床、PICUはオープンフロア6床+個室2床の専用病床を有し、これらの病棟内で連携しながら、患者さんの重症度に応じた診療を行います。

### NICU・GCU



新生児専門の小児科医、小児外科医と看護師がチームを組み、超低出生体重児のみならず、胎児診断症例や多科との共同診療が必要な先天疾患をもつ赤ちゃんたちを24時間体制で治療します。

### 小児病棟



血液腫瘍疾患、循環器疾患、消化器疾患、神経疾患、代謝内分泌疾患、腎・膠原病疾患などの小児科の患者さんだけでなく、小児外科・脳神経外科・形成外科などすべての小児患者さんが入院し、治療をうけています。

### PICU



小児集中治療室(PICU)は、小児集中治療機能に特化し、厚生労働省の小児救命救急センター事業に指定された施設としては、全国で8番目、国立大学附属病院では2番目にあたります。小児重症疾患や侵襲度の高い手術後の集中治療管理を日常的に行いながら、茨城県を中心とする広域小児救急医療システムの中核施設として、24時間体制で3次救急医療機関からの搬送を受け入れ、高度の小児救命救急医療を展開します。

2022年度からはsemi-closed化し、平日日中に限り常勤スタッフを配置し、主診療科と連携しながらより精度の高い診療を実現しています。PICUチームでのエコーガイド下穿刺処置件数は年間500件程度、気管挿管は50件前後、CHDFやECMO管理は5~6件と高度な処置や管理も学べる場となっています。今後はfull-closedに向けてスタッフの拡充・教育に注力しています。

## 小児科研修始め、だからこそ大学病院！？

私は小児科研修を始めるにあたり、まず「どんな症例に出会っても、一通りの対応ができる実力をつけたい」と考えていました。若手の医師は誰でも、似たようなことを思っているのではないのでしょうか？

筑波大学小児科、特に大学病院のPICUにおける高度医療の経験はこういう私の希望に叶ったものでした。大学病院特有の希少・重篤疾患はもちろん、大学病院としては珍しく小児救命救急センターの指定を受けており、県内の他施設で対応不能なあらゆる小児救急患者さんに対応しています。また、小児外科、脳神経外科、循環器外科などの手術症例の術前・術後管理に関わることも、通常の小児科研修では得難い勉強の機会でした。

大変な思いをすることもありますが、着実に一人前に近づいていると感じる今日この頃です。「地域医療の最後の砦」として最重症の子ども達の診療に当たるのは、やりがいのある仕事でもあります。子ども達のため、切磋琢磨できる仲間を募集しています。



卒後7年目  
男性医師

## 後期研修から筑波大学に来て感じたこと

私は出身大学も初期研修病院も筑波大学ではありませんでしたが、後期研修から筑波大学小児科の門戸を叩き、卒後4年目になります。赴任当初は他大学出身ということで肩身の狭い思いをするのではないかと、という不安がありましたが、働き始めると私以外にも出身大学の違うレジデントが多くいることを知り、さらに上級医が分け隔てなく接して指導しているのが実際でした。

初期研修のみなさんは後期研修病院を選ぶにあたり、①専門分野、②症例数、③指導体制などを気にされることと思います。特に筑波大学と縁のない方は筑波大学小児科の内部の事情が分からず専門分野に偏りがあることを懸念されるかと思いますが、しかし実際には、神経・代謝・内分泌・腎臓、肝臓・消化器、血液・腫瘍、新生児、集中治療・救命救急等の各分野における専門医が在籍しており、

どの分野においても疑問があればそれぞれの専門の医師に直接質問し、的確な指導を受けることができます。症例も偏りがなく、小児科ならではの多岐にわたる疾患を充実した指導体制で経験できます。これを読んでいる筑波大学以外の出身の方も是非、筑波大学に見学に来てください。そして、一緒に筑波大学小児科で働きましょう！



卒後4年目女性医師

|       | 人数 | 男性 | 女性 | 出身大学(50音順)                 |
|-------|----|----|----|----------------------------|
| 令和元年度 | 5  | 3  | 2  | 東邦大、福島県立医大、筑波大             |
| 令和2年度 | 5  | 3  | 2  | 埼玉医科大、産業医科大<br>弘前大、山形大、筑波大 |
| 令和3年度 | 4  | 2  | 2  | 東京医科歯科大<br>福島県立医科大、筑波大     |
| 令和4年度 | 5  | 4  | 1  | 東京医科大、獨協医科大<br>山形大、筑波大     |
| 令和5年度 | 3  | 2  | 1  | 熊本大、筑波大                    |
| 令和6年度 | 7  | 4  | 3  | 神戸大、佐賀大、帝京大<br>東京医科歯科大、筑波大 |

| カンファレンス一覧        |     |                    |      |
|------------------|-----|--------------------|------|
| 小児科・小児外科合同朝カンファ  | 毎日  | 総合(神経・消化器・内分泌)グループ |      |
| 小児科教授回診          | 毎週  | 小児心理カンファ           | 月1回  |
| アカデミックミーティング     | 毎週  | 発達障害小児科学カンファ       | 月1回  |
| リサーチカンファ         | 月1回 | 筑波メディカルセンター        |      |
| 放射線カンファ          | 月2回 | 茨城県立こども病院WEBカンファ   | 月1回  |
| CPC              | 不定期 | 脳外科カンファレンス         | 月1回  |
|                  |     | 茨城小児神経懇話会・県内分科会    | 3か月毎 |
|                  |     | 児童精神勉強会            | 3か月毎 |
| 循環器グループ          |     | 新生児グループ            |      |
| 心臓カテーテルカンファ      | 毎週木 | NICU多職種回診          | 月火木金 |
| 成人先天性疾患WEBカンファ   | 月1回 | 周産期カンファ            | 毎週火  |
|                  |     | 周産期メンタルヘルスケアカンファ   | 月1回  |
|                  |     | 新生児県立こども病院WEB勉強会   | 毎週木  |
| 血液グループ           |     | その他                |      |
| 小児固形腫瘍カンファ       | 月1回 | 小児ICU合同カンファ        | 毎週月  |
| 茨城小児血液・腫瘍WEBカンファ | 月1回 | ICU画像カンファ          | 毎週火  |
| 脳腫瘍カンファ          | 月1回 | レジデントレクチャー         | 年20回 |
| 陽子線カンファ          | 月1回 | 茨城急性期治療勉強会         | 隔月   |



## 市中病院の研修

卒後3年目に大学病院で研修し、卒後4年目に筑波メディカルセンター病院で研修しています。  
私の1日を紹介します。

Common diseaseの中に重症な方が含まれているので、スピーディーかつ丁寧に診療するように心がけています。

筑波大学病院小児科や小児外科との合同カンファを行い、転院症例の経過のフィードバックを受け、次の診療に役立てます。

|      |      |    |       |           |       |           |
|------|------|----|-------|-----------|-------|-----------|
| 8:00 | 9:00 |    | 12:00 |           | 17:00 | 18:00     |
| 診察   | 回診   | 外来 | 昼食    | 入院処置／専門外来 | 診察    | 回診        |
|      |      |    |       |           |       | カンファ勉強会など |

患者さんを診察して、検査や処置の予定を確認し、スケジュールを整理します。

患者さんの処置や曜日によって退院後のフォローアップや専門分野の外来をしています。

卒後3年目に筑波大学附属病院で研修することで高度専門医療機関へ紹介すべき患者さんの見極めが身についたと感じています。業務終了後には帰宅して家族と過ごしたり、文献検索や自習の時間に充てます。家庭と仕事の両立のため、仕事を効率よく進めてできるだけ早く帰るように心がけています。

ちなみに夫も小児科医でお互いの忙しさをよく理解しているため、うまく分担して家事を済ませるようにしています。忙しさは状況次第です。同期や先輩方、コメディカルの方々と協力しあい、時に愚痴をこぼしあったりもしながらその日の最善を尽くしています。子ども達の無垢な笑顔はいつもパワーの源になります。どんなに疲れていても、この子達のため頑張ろうと思えるところが、小児科の一番の魅力です。



卒後4年目 女性医師



# 小児科Boot Campの紹介

- 一般的なレクチャーや教科書では学べない「スキル」に重点を置いた複数の講習会を、主に後期研修医を対象に年4-5回企画するシリーズが「ブートキャンプ」。
- 朝から晩まで手を動かし、体を使い、頭を働かせて集中的にトレーニングします。
- 内容はシナリオ演習、骨髄針、気道確保や超音波の実技、コミュニケーションスキルのロールプレイ、など様々。
- 県内の他病院研修中の後期研修医も参加してもらい、同年代の横のつながりもできます。

例えばシナリオ演習コース！14の症例演習をチームで乗り越える。講義と組み合わせて臨床現場での考え方を効率的に学習。



例えば超音波合宿コース！

関係者のお子さんのお腹を借りて、夜中までひたすらハンズオンセミナー。正常構造の描出を徹底的に練習しながら、各疾患での描出ポイントを解説。



今年もこの他にも色々と計画進行中！



# 医師の子育て支援

筑波大学小児科では小児科医としてのキャリアアップを目指しながら出産・育児を並行している方が多くいます

医師として成長したい。同時に、妊娠、出産、子育てというライフイベントも大切にしたい。その思いを尊重し、筑波大学小児科は個々の医師の状況に応じた支援を行います。

実際、筑波大学小児科では小児科専門医の取得前に出産、子育てを開始する女性医師が多くいます。また、出産後、職場復帰までの期間（育休期間）や復帰後の働き方は本人の意思が尊重されます。

私には2歳の長男がおり、現在第2子を妊娠中です。関連の市中病院に勤務していますが、第1子の育休復帰前に助産期間として外来診療のみの期間を1-2か月設けていただきました。おかげで本復帰時にコメディカルとの連携を含めスムーズに診療に携わることができました。当直や準夜などの夜間の診療についても配慮してもらっています。



卒後8年目  
女性医師  
(二児の母)

筑波大学では、以下の育児支援制度が利用できます。

## ①筑波大職員が利用できる保育所が整備されています

大学が設置する「ゆりのき保育所」の利用が可能です。  
筑波大学敷地内にあり、附属病院から徒歩8分です。  
保育時間： 7:30～21:30の間で最大10時間  
※早朝・延長利用も可能



こんにちは。4歳の男の子を育てています。筑波大付属のゆりのき保育所は大学病院から近く、仕事が遅くなる予定の日は夕飯をお願いしたりと、フレキシブルに対応していただいています。  
職場の同僚、上司、後輩ともにこども好きで仕事の面でもたくさんサポートをしてもらっていて、助かっています。



卒後17年目  
女性医師  
(三児の母)

## ②院内病児保育が利用できます

子どもが病気の際に、院内で病児保育を利用することができます。  
利用可能時間： 8:30～18:00  
利用料： 4,000円/日  
受付： 平日8:30～17:15（祝祭日を除く）



3人の子どもを育てています。子どもの急病時に仕事が休めない時、母に頼めない時、そんな時に頼りになるのが病児保育です。  
メールでの申込みも可能で、当日の午後からでも受け入れてくれます。  
熱が高い時も病児保育担当の小児科医師が子どもの様子を見て判断してくれるので、安心です。



卒後13年目  
女性医師  
(三児の母)

私は4歳の長男と1歳の双子の娘をもつ男性医師です。妻も他の病院に勤務しており、こどもの発熱等の際に院内の病児保育を使用しています。  
院内にあるため送迎しやすく、昼の休憩時間には様子を見に行くこともできます。  
女性だけでなく男性医師も利用できることで、妻に偏りがちな負担を減らすことができ、大変感謝しております。



卒後12年目  
男性医師  
(三児の父)

## 後期研修終了後の進路 ～診療と研究と子育てと～

「いざ、ゲノム診療の時代へ!!

～現在のこどもだけでなく、未来のすべてのこどもたち  
を救うために～」 福島 紘子

筑波大学小児科での研修は各グループ間の垣根はなく、わきあいあいと研修を行っています。診療科間の連携もよく、特に小児外科と小児科は毎朝全員で合同カンファレンスを行うなど連携は良好です。これによって複雑で複数の臓器にまたがった問題を抱えている方の診療も円滑に進めることができていると実感しています。

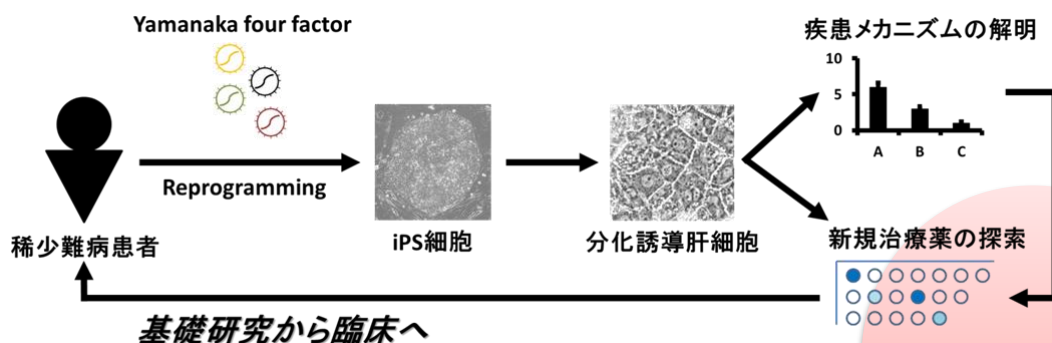
研究領域では、私は血液・がん及び遺伝学が主たる専門領域であり、この二つにまたがるような研究を行っています。こどもに起こる病気は成人に比べ、環境や生活習慣の影響が少ないことは想像に難くないと思います。こどもの病因解明のひとつの手段として、遺伝学的解析は有用な手法と考えています。小児がんはまれな疾患でこどもの10,000人に1人の割合で発生し、大人に比べてこどもはがん非常に罹りづらいことがわかります。がんになった原因を遺伝学的解析で突き詰めていくことで、がんの予防、早期発見、治療法の開発につなげたいと考えています。

現在新米ママとしても研修(?)を始めたところですが、筑波大学では365日開所の保育施設の併設や病児保育といったサポートも充実しています。なにより、同僚、上司、一緒に働いている皆さまから、あたたかな支援をいただけています。おかげさまで、ペースは人と比べるとゆっくりかもしれませんが、日々研鑽を積むことができます。ぜひ一緒に、目の前の患者のみならず、将来の、世界の病気のこども達を救いましょう!



## 「診療と研究の両立を目指して」 今川 和生

私は初期研修の2年間で市中病院で過ごした後、筑波大学小児科での後期研修を開始しました。筑波大学や関連病院で診療する中で、こどもたちに起こる難しい病気には「原因や病態がよく分かっていない」ものが多いことに気付かされました。この課題を解決する方法を学びたいという思いで後期研修修了と同時に大学院へ進学しました。ところで、iPS細胞といえば再生医療への応用が有名ですが、病気の方に由来するiPS細胞を用いた疾患解析や新規治療法の探索も行われていることはご存知でしょうか。小児科で扱うような患者数が極めて少ない遺伝性の難治疾患では、この研究方法が適しており、注目されています。私は理化学研究所や医薬基盤研究所、大阪大学大学院薬学研究科へ留学する機会を頂き、この疾患特異的iPS細胞を用いた難病の解析研究を進めています。筑波大学小児科では診療はもちろんのこと、研究活動も十分な支援を受けて行うことができます。ぜひ一緒に勉強しましょう。





## 後期研修終了後の進路 ～国内留学を経て～

### 「国内留学と、PICUチームの立ち上げ」 奥脇 一

筑波大学附属病院小児科での後期研修のなかで、重症な小児患者の診療に関わる機会が多くありました。その経験から小児集中治療を専門にすることを決め、医師7年目から8年目に集中治療についてより多くの経験を得るために、国立成育医療研究センター集中治療科で勤務しました。全国から重症患者が集まってくる施設で、内科疾患の集中治療管理だけでなく、外科術後の全身管理、挿管やCV確保といった手技、人工呼吸器、透析、ECMOといったさまざまなことを学ぶことができました。

そこで学んだことをもとに、筑波で小児集中治療をやられていた先生方と共に、2022年4月からPICUチームを立ち上げ、内科・外科問わず重症な子供たちの診療を行っています。茨城県内の重症な子供が集まるPICUでの診療・マネジメントなど多くのことをさらに学びながら、診療する日々を過ごしています。

今後は、臨床はもちろんのこと、研究や、若手医師や学生さんたちへの小児集中治療の教育もすすめていきます！



### 「自分のペースで専門的な勉強や診療を継続できます」 渡辺 詩絵奈

私は筑波大学小児科で後期研修を行い、小児科専門医を取得した後小児神経の分野を専攻しています。家族の転勤に伴い東京の国立精神・神経医療研究センター病院やおおぞら診療所に2年半勤務し、現在は茨城県西部メディカルセンターという地域病院の小児科に勤務しています。

共働きの場合は働く場所に悩むことも多いと思いますが、筑波大学小児科では家庭の状況などを考慮しながら、専門的な勉強や診療も継続できるようサポートしてもらえます。私の場合は、小児一般診療と小児神経診療を行いながら、地域病院に勤務している強みを生かして、内科医や在宅医と連携して小児在宅医療や移行期医療支援に取り組んでいます。また、週1回筑波大学や茨城県立こども病院の小児神経グループの先生方とサブスペシャリティの専門医取得を目的としたweb勉強会を行い、楽しく小児神経の勉強を継続しています。

研修終了後の進路についても相談しながら、ぜひ一緒に筑波大学小児科で研鑽を積んでいきましょう！



# 後期研修終了後の進路 ～子どもの総合診療医として～

## 「子どもの総合診療医として」 森田 篤志

私は、小児科医数が少ない茨城県において、「小児科医は子どもの総合診療医」という役割に強いやりがいを感じながら、筑波大学附属病院での後期研修を修了しました。非常に幅広い疾患を診療する中で、超音波検査がとても役に立つことを学び、さらにその中で消化器疾患が思った以上に多いことに気づきました。同時に、消化器病態を評価することは、例えば栄養管理など、どの疾患を診る上でも重要であり、より適切な医療の提供に繋がると確信するようになりました。

そのような思いで、医師9年目に長野県駒ヶ根市の昭和伊南総合病院消化器病センターに半年間、国内留学させて頂きました。指導医はイグノーベル賞受賞者の堀内朗先生で、半年間で計2012件の内視鏡検査を単独で実施したとともに、筆頭著者として計5本の英語論文を執筆し、またとない経験となりました。

この時期はちょうどCOVID-19流行期であり、筑波大学に戻ってきてからは大学院生として、同時期に問題となっていた小児COVID-19関連多系統炎症性症候群(MIS-C)や原因不明小児急性肝炎の免疫病態に関する研究に取り組みました。幸運なことに、病態の一端を解明するような成果を筑波大学小児科から発信することができ、かけがえのない経験となりました。

このような経験を経て、現在も内視鏡検査や超音波検査を駆使しながら、子どもの総合診療医としての役割を果たせるよう日々研鑽を続けています。同時に、学会発表や論文執筆も積極的に行って筑波大小児科の良さを発信し、熱心な後輩達の指導も行いながら自分自身も日々刺激を受けています。

「臨床・研究・教育」の3本柱がバランスよく充実している筑波大学小児科で、是非一緒に働きましょう！







## **筑波大学 小児科**

**〒305-8575**

**茨城県つくば市天王台1-1-1**

**TEL 029-853-5635**

**FAX 029-853-3492**

**E-mail: [pediatr@md.tsukuba.ac.jp](mailto:pediatr@md.tsukuba.ac.jp)**

